

審議会等の会議の概要の記録

会議の名称	令和4年度 第2回甲州市戦略会議
開催日時	令和4年7月26日(火) 午後2時00分から午後4時00分
開催場所	甲州市役所2階 第一会議室
議題	1 松坂浩志委員提案「ワインの現状と未来」 2 グループ討議「地域ブランドを守り、創るため」 3 まとめ
出席委員	岡村美好委員、丹澤尚人委員、土屋隆男委員、寺田秀昭委員、 中村一政委員、中村猛志委員、古屋亮委員、松坂浩志委員、 山下善雄委員、横内正史委員 <div style="text-align: right;">(五十音順)</div>
会議の公開又は非公開の区分	非公開
会議を一部公開又は非公開とした場合の理由	委員がより自由な発言をできるようにするため
傍聴人の数	—
審議概要	別紙のとおり
事務局に係る事項	出席者 政策秘書課3名(林リーダー、宮川、三森)
その他	

<p>内容</p> <p>1. 開会</p> <p>2. 市長あいさつ</p> <p>3. 会長あいさつ</p> <p>4. 議題</p> <p>(1) 松坂浩志委員の提案「ワインの現状と未来」</p> <p>(2) グループ討議「地域ブランドを守り、創るため」</p> <p>(4) まとめ</p>	<p>次第に基づき以下のとおり進められた。</p> <p>○事務局(林) 開会</p> <p>○鈴木市長あいさつ</p> <p>○中村会長あいさつ</p> <p>(鈴木市長退席)</p> <p>○松坂委員 「ワインの現状と未来」について資料に基づいて説明。</p> <p>○中村会長 「地域ブランドを守り、創るため」についてA班、B班に分かれてグループ討議をお願いする。</p> <p>【A班】 座長：古屋亮委員、丹澤尚人委員、中村一政委員、松坂浩志委員、横内正史委員</p> <p>【B班】 座長：寺田秀昭委員、岡村美好委員、土屋隆男委員、山下善雄委員</p> <p>グループ討議：午後2時50分から午後3時50分</p> <p>○中村会長 グループ討議の内容について班ごと説明をお願いする。</p> <p>【A班】</p> <p>○古屋委員</p> <p>A班で出た意見を集約させて報告させていただく。まず、地域のブランドをどう構築していくかということについて、地域の価値を上げていくには、ワインの話でいうと「ものづくり」「ことづくり」の2つが大事になる。基本的に甲州市のワイナリーは「ものづくり」に注力し、各々のワイナリーが個性豊かなワインを作り、価値を高</p>
--	--

める動きに集中してきた。それも非常に素晴らしい動きであり、それが当市の魅力であるという意見も当然ある。一方で、地域の価値を上げていくということになると、統一的なブランド認証も必要になる。相反する話ではあるが、今後 2040 年に向けて並行して話をしていく必要があると感じている。

甲州市は「ことづくり」において、非常に弱い印象があり、まさにそこがブランド価値を引き上げることに弱くなっていると考えられる。特に日本農業遺産に認定されたこの景観というのは、長い歴史の中で先人たちが繋いできた大切な景観であり、そこには単なる農業生産だけではなく、先人たちが守ってきた想い、歴史や文化が詰まっている。それを守っていくことが地域の価値を高めることにつながる。それを守っていく一つの方法として、教育的な要素がある。甲州市で既に行っている中学生のジベ処理体験だけでなく、さらに深くワインの歴史や知識等を小学校から教育として取り上げていく。それが最終的にはワインからカルチャーに向かっていく道筋になる。また、ブランド価値を高めというのは、内からの評価ではなく、外からの評価が大事になる。そのためには、輸出等で海外からの評価も高く受ける必要がある。

これについては制度的な問題でなかなか進んでないということなので、行政の支援が必要なのではないか。また、景観を守っていくためには、ぶどう棚を守っていく必要がある。高齢化で後継ぎがいないような畑を集約し、仲介する仕組みを作る。そうしながら、生産も守っていく。その仕組みを行政も含め地域全体で考えていく。

最後に、「ブランドづくり」「ことづくり」という話の中で、地域の中に泊まれる場所があり、食を楽しむ。ワインと食は密接に関係しているので、食を楽しめる仕組み等、食をもう少し深く考えいくことも必要ではないかとの意見もあった。

【B班】

○寺田委員

B 班では、甲州市の重要なワイン産業が 2041 年に向かって、どうあるべきであり、またどういう方向性が必要なのかという議論の中で、GI を最上位として位置付けた。それには、山梨県という括りではなく、GI 甲州または GI 勝沼のようなさらに小さいエリアで作り上げていく。その条件としては、ワイン業界が一丸となり、地元

<p>5. その他</p> <p>6. 閉会</p>	<p>の中だけの競争ではなく、海外に目を向けた競争をすることが重要である。</p> <p>この戦略会議においては、出てきた課題に基づいてまとめていき、行政がやりやすいような提言をしていく。そこで大きなポイントになるのは、原材料の生産であるが、従来のかたちだけではなく、AI や IOT を取り入れる中で、品種の改良、生産の改革をしながら対応していく。また、ワインに関しては、国税局が主管であることから、国との関連性も持つ中で、GI を作り上げていくことが必要である。</p> <p>○中村会長 それではこれで議事を終わらせていただく。</p> <p>○事務局（林）連絡事項等特になし。</p> <p>○寺田副委員長 閉会</p>
----------------------------	--